

1 自己評価及び外部評価結果

事業所概要 (事業所記入)

事業所番号	0570207779		
法人名	有限会社 せせらぎ		
事業所名	グループホーム せせらぎ (せせらぎ棟)		
所在地	能代市落合字下谷地 251 - 6		
自己評価作成日	平成 22 年 9 月 20 日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

評価機関概要 (評価機関記入)

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目 1番地の 1		
訪問調査日	平成 22 年 10 月 25 日		

事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)

地域に密着したホームで自治会に加入、総会や清掃活動、盆踊りなど参加している。また、老人クラブとの交流もあり、運営推進会議に参加して頂いている。その他、ボランティア活動を通じ地元のひとたちと利用者さんは積極的に交流している。また、関連事業所による企画で、運動会や能代カラオケ同好会を毎年実施し利用者・家族・ボランティア・地域住民など多数の方々との交流を図っている。

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点 (評価機関記入)

団地の自治会 16班中の第 8班に所属し、違和感なく町内の一員としてホームが溶け込んでいる。特に老人クラブとの付き合いは良好で、利用者や職員とすっかり顔なじみの間柄である。運営推進会議は、家族、老人クラブ、民生児童委員、市職員、自治会、消防署等が参加して、互いに理解し合える場となっている。消防署員が運営推進会議の構成員として位置づけられたことから、災害対策に万全を期す姿勢が伺える。天気と車の都合次第でいつでもドライブに出かけられる体制をとっており、数え切れない程あちこちに出かけたり、外食や散歩を楽しんでおり、利用者も外出が大好きである。2棟ともに中央に日本庭園があり、老舗旅館に在るような雰囲気を出している。訪問者を暖かく歓迎してくれる明るいホームである。

サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目 23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目 9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の 2/3 くらいと 3. 家族の 1/3 くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目 18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に 1 回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目 2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に 1 回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目 38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目 4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目 36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目 11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の 2/3 くらいが 3. 職員の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目 49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目 30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の 2/3 くらいが 3. 家族等の 1/3 くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目 28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)-)+(Enter+)-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念を玄関及びホールに掲げ、職員が常に意識出来るよう心がけている。	法人共有の企業理念を踏まえ、職員同士の話し合いで分かりやすい表現のホーム独自の理念が作成されており、目に付く場所に掲示されている。ホームの理念は必要に応じ、都度見直しされている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、集会には積極的に参加している。老人クラブの方々とも顔なじみであり、行事に声をかけてもらったり、清掃活動などにも参加している。	落合団地の自治会16班中の第8班に所属し、町内在住の職員もおり、違和感なく町内の一員として溶け込んでいる。特に老人クラブとの付き合いは良好で、利用者や職員とすっかり顔なじみの間柄である。	
3		事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	自治会長及び老人クラブ会長などとの交流の機会を利用し、話し合いを持っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実況、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームのサービス状況の評価を報告し皆さんに意見を聞きサービス向上に活かしている。	9月に開催された第9回より、市の消防署員が構成員として加わり、家族、老人クラブ、民生児童委員、市職員、自治会、消防署、事業所それぞれが運営推進会議を通して、互いに理解し合える場となっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市担当者が1名委員として参加していただいている。市担当者の施設訪問はないが、事業所の相談事項などあった場合には、出来る限り担当課に直接訪れ、指導を受けながらサービスの向上に努めている。	市担当者が運営推進会議の構成員であり、担当者が参加できない時は代理を派遣してくれるなど、協力関係が築かれている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、事業所としては身体拘束マニュアルにより行っている。	転倒による危険性がきわめて高い利用者に関して、代替策等を検討した結果、安全ベルトを時間を限定して使用している。事業所の身体拘束防止マニュアルに基づき、本人及び家族に説明し承諾を得ている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については管理者等会議、職員会議において話す機会があり、今後も利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度については、管理者や職員はその必要性を認識しているが、利用者や家族は制度などの関心が薄い状態にあり、必要な人には活用できるよう支援することが出来る。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり解約をする時には利用者や家族などに契約内容を再度説明し不安、疑問点を聞かれた時には十分な説明をし、理解・納得を図るよう努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情処理箱を設置し利用者及び家族などが意見や要望、苦情などを管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設けている。苦情などがあった場合は、処理するために講ずる措置の概要により、苦情改善会議を開催し、それらを運営に反映させるようにしている。	苦情として取り扱った事例はないが、月に一度は家族が利用料の支払に事業所を訪れた際に、利用者の状況を説明し、家族も意見や要望を言いやすいよう配慮している。その内容を事業所内で共有し、対応を検討している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の職員会議において、職員の意見を聞いており、棟責任者は管理者に報告し利用者のサービス向上に努めている。	職員会議に限らず、朝の打ち合わせ等で提案された職員のアイデアについては、その場にいる職員で検討し、「すぐできることは、まずやってみよう!」の姿勢で取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は、管理者や職員ひとりひとりの努力や実績、勤務状況を把握している。職員などには感謝の気持ちを伝え、それぞれが向上心をもって前向きに働けるよう職場環境、条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を段階に応じて育成するために毎年計画を立て、事業所内外の研修に参加させるよう努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	能代山本グループホーム協会に加入し、代表者自身や管理者及び職員が総会や研修に参加し交流する機会を持ち、ネットワークは出来ている。また、県北介護支援専門協会にも加入し、これも総会や研修を通じて交流し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の不安や要望に耳を傾け、安心して過ごして頂けるよう、管理者や職員と話し合いを持ちながら本人と信頼関係を構築するよう努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービス導入以前かあ家族の不安や要望などに耳を傾け信頼関係を築き、困っていることなど随時相談出来る関係作りに努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p> <p>小規模多機能型居宅介護限定項目とする</p>			
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員は本人が出来る役割を見つけ声がけを多くし完成した場合は労いの言葉をかけて対応している。また、懐かしむ歌と一緒に歌ったり昔話に耳を傾けたりし、お互いに誉め合いながら支えあう関係を築いている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族などホームの訪問に制限はなく行事への参加を促している。また近況報告を頻回としホームと一緒に本人を支える関係を築いている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている</p>	<p>職員は本人と一緒に行きつけのスーパーへ買い物に行ったり、店を回ったりして馴染みの関係が途切れないように支援に努めている。</p>	<p>迷惑をかけないようにとの配慮で、外出先の制限を家族が希望される場合もあるが、外出先で会える住民が利用者の馴染みの方であることも多く、出来る限りあちこち出かけることを支援している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関係を把握しており、それぞれが孤立せずに係わり合いを持つよう職員が中に入ったりしながら支えあうよう支援に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、介護などの相談に応じており、関係を断ち切らないようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活リズムを把握し、集団生活の中で利用者本位になるようサービスの提供に努めている。	家族で行ったことのある思い出の店に出かけて外食を楽しんだり、趣味の毛糸編みを続けられるよう職員が材料の毛糸を工面するなど、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向をかなえられるよう配慮している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び家族から、今までの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過などを聞き、把握することに努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの現状把握は介護サービスを提供する上で、大切なことであり現状把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人、家族から要望を聞き、カンファレンスの際に話し合われた課題に対する意見やアイデアを参考にしながら、モニタリングを行い介護計画を作成している。	利用者個々のカンファレンスが毎月開催され、本人がより良く暮らすためのケアのあり方について、職員間で詳細にわたり検討されていることが本人、家族からの聞き取りや職員間の話し合いの記録などから確認できた。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の状況に応じて計画期間を定め、カンファレンスやモニタリングを行い見直しを行っている。また、介護区分変更が必要となった場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる 小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の意向を尊重しながら、ボランティアの受け入れや消防訓練、学校の課外授業、介護研修生の受け入れを行っている。また、医療機関とは良好な関係を築きながら支援している。		
30	(11)	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局などとの事業所の関係は良好で本人及び家族はどの納得をえており、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人及び家族の意向を確認した上で、ホーム利用前に通院していたかかりつけ医やホームの協力病院を利用できるよう配慮している。前回の外部評価結果を踏まえて、主治医の最新一覧表を2棟に備え付けていることが確認できた。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携体制を築いている。ホームへの訪問により看護職と気軽に相談しながら日常の健康管理や医療活用の支援を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時には、病院関係者及び家族との連絡を密にし、情報交換や相談に応じており、安心して治療出来るよう支援している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人、家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方については、早い段階から本人や家族などと話し合っている。また、かかりつけ医などとは連携が取れており、職員を含め全員で方針を共有している。	看取りを実施した例はないが、看取りについての指針が整備されており、本人、家族、主治医の連携のもとに看取りの対応をし、経過説明について記録を開示する体制にある。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え緊急連絡網や救急車の要請手順を作っている。職員は応急手当や初期対応につき、話し合いや実践訓練を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練は防火訓練時に実施し、避難場所は事業所の関連敷地が広く確保され、地域住民の一員として協力を得られるよう努めている。	前回の外部評価結果を踏まえて、夜間総合訓練、通報訓練、総合訓練をすでに実施済みであり、都度消防署員の参加を得ている。消防署員が運営推進会議の構成員として位置づけられ、災害対策に万全を期す姿勢が伺える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者それぞれの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応はしておらず、プライバシーの確保は徹底されている。	利用者の心身機能の状況に配慮し、転倒等の危険をいち早く察して対応できるよう、安全第一を優先した結果、ホーム内のトイレは全てカーテンを採用している。	トイレにおけるカーテン採用のメリット・デメリットを職員間で話し合った上で、事業所としての方針を統一し、共有することを期待します。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がその人らしい思いや希望を表せるように働きかけ、共同生活の中で納得しながら暮せるように支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の一人ひとりのペースを大切に、好きな役割や希望に沿い、無理強いせずその日一日を有意義に過ごせるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	本人の希望や家族の意見を聞きながら、その人らしい身だしなみやおしゃれ、理容・美容などについては家族とも連絡を取りながら本人の望む店に行けるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る範囲内で役割として職員と一緒に調理や準備、後片付けをしている。また、誕生日には希望を取り入れた献立にし、楽しみの支援を行っている。	食事に対する利用者の関心が高いことを十分理解しており、利用者と職員がともに食事を楽しめるよう工夫している。利用者の嗜好に応じた代替食についても配慮している。	食事を楽しみにしている分、夕食開始の時間が早くなる傾向も感じられる。意向調査等を実施し、夕食の時間帯について再考する機会を設けることを期待します。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりが食べる量や栄養バランス、カロリー、水分量が確保されているか把握し、利用者の状態や力量、習慣に応じた支援を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持のため、毎食後声かけにより、利用者一人ひとりの口腔状態や力量に応じた口腔ケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りオムツ使用を減らすべく一人ひとりの排泄パターンを把握し、習慣を活かしてトイレ誘導を行い失敗のないよう配慮し自立に向けた支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄状況の詳細を把握しており、少しでも排泄の自立につながるよう努めていることを確認した。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は、利用者の便秘原因や及ぼす影響を理解し、予防のための食事の工夫や散歩、歩行訓練、水分補給、センナ茶の活用、ラジオ体操などで体を動かす働きかけなどに取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調や希望、状況に合わせて入浴を楽しめるように支援している。	利用開始前の個々の生活環境や習慣などから、入浴をあまり好まない利用者もいるが、利用者個々にあわせた声掛けや対応をいろいろ工夫することで、満足していただけるよう努めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活習慣や日々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるように、かかりつけ医とも相談しながら支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、利用者一人ひとりが服用、使用している薬の目的や副作用、用法や容量について、医師の説明や薬局の説明書により理解に努めており、活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好物のメニューを一緒に考えたり出来る範囲内で役割を持っていただき、生活歴や経験を活かせるように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	天候にもよるが散歩やドライブ、他施設訪問、買い物などに誘ったり外食をしたりと戸外に出かける機会を多く持つよう支援している。	近隣スーパー、地元観光地のダム、深浦方面、サンタランド、北欧の森、はまなす画廊、風の松原等々、数え切れない程多方面にドライブに出かけたり、外食したり、あるいは散歩を楽しんだりしている。利用者も外出が大好きで、事業所は天気と車の都合次第でいつでも出かけられるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者がお金を持つことの大切さは理解しているが家族の希望で利用者には持たせていない。預り金の中から小額のお金を所持し、嗜好品を買う機会は職員同伴のもとで支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人からの電話の取次ぎや利用者が電話をしたいときは希望に沿って支援している。また、手紙のやりとりも出来るように支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は毎日清掃消毒を行い清潔にし、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮している。また庭では季節の草花が見ることが出来、室内でも生活観や季節感を取り入れた飾り物などで居心地良く過ごせるように工夫している。	共有の空間に不快な要素は感じられない。2棟ともに中央部分に日本庭園があり、老舗旅館に在るような雰囲気である。ホーム内の随所に利用者が戸惑わず生活できるよう工夫のあとが見られる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	共用空間の中には、利用者同士が思い思いに過ごせるようにソファや畳のスペースがありテレビを見たり新聞を読んだりしながら自由に過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は基準より広めに作られ、家族が訪問した場合でも居室で語り合うことが出来る。また、使い慣れた物や好みの物を活かせるようにして本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	ペット・タンス・テレビ等、利用者が使い慣れたものや馴染みのものを持参したり、本人が使い勝手のいいように配慮している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が毎日生き生きと生活出来るよう十分な観察を会話の中から本人のニーズを聞きだし対応している。		